



令和 5 年 6 月 6 日  
大洲河川国道事務所  
肱川ダム統合管理事務所

## 令和5年6月の梅雨前線及び台風2号に伴う大雨に おける肱川の出水への対応 【速報】

～肱川の氾濫による家屋浸水を回避～

肱川流域は令和5年6月2日に、梅雨前線及び台風2号の影響により、肱川橋上流域平均総雨量で127.7mm（時間最大雨量26.7mm）を記録し、大洲第二水位観測所（肱川橋地点）では避難判断水位（4.80m）に迫る最高水位4.54mに達しました。

今回の出水では、肱川上流域の野村ダムと鹿野川ダムでダムの容量を最大限確保し、下流への流量を低減させ、菅田地区の水位を約0.9m、肱川橋地点の水位を約1.1m低減させたと推定されます。

この2ダムの洪水貯留による水位低減効果により、肱川の氾濫による家屋浸水を回避したと推定されます。

また、矢落川の2箇所に排水ポンプ車2台を配備しました。そのうち1箇所（都谷川排水樋門）で排水ポンプ車を稼働させ、合計約66,000m<sup>3</sup>の排水を行うことで浸水被害の軽減に努めました。

なお、資料における数値は速報値であり、今後修正する可能性があります。

本施策は、四国圏広域地方計画「NO.1 南海トラフ地震を初めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト」の取り組みに該当します。

### 問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所 Tel: 0893-24-5185(代)  
副所長 高島 愛典（タカシマ ヤスノリ）（内204）  
事業対策官 新川 和之（シンカワ カズユキ）（内208）  
◎ 工務第一課長 宮田 晃（ミヤダ ヒカル）（内311）

国土交通省 四国地方整備局 肱川ダム統合管理事務所 Tel: 0894-72-1211(代)  
◎ 副所長 南本 秀行（ミナミモト ヒデユキ）（内204）  
管理課長 石丸 満久（イシマル ミツヒサ）（内331）

◎：主な問い合わせ先

# 気象の概要

## ■ 台風経路図(気象庁提供)

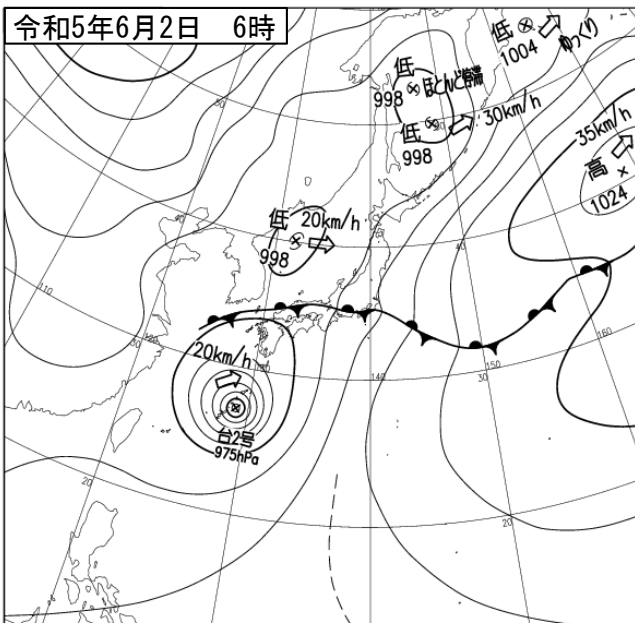
梅雨前線が6月1日から3日午前中にかけて本州付近に停滞しました。

この前線に向かって台風2号周辺の非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため、2日には梅雨前線の活動が活発になり、西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となりました。

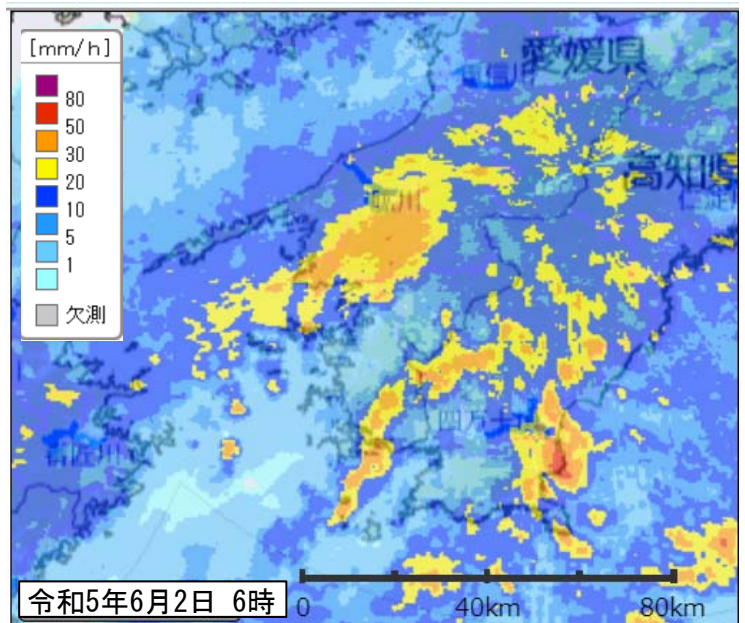
肱川流域においても、この梅雨前線の影響で大雨になりました。



## ■ 天気図(気象庁提供)



## ■ レーダ雨量実況図(国土交通省)

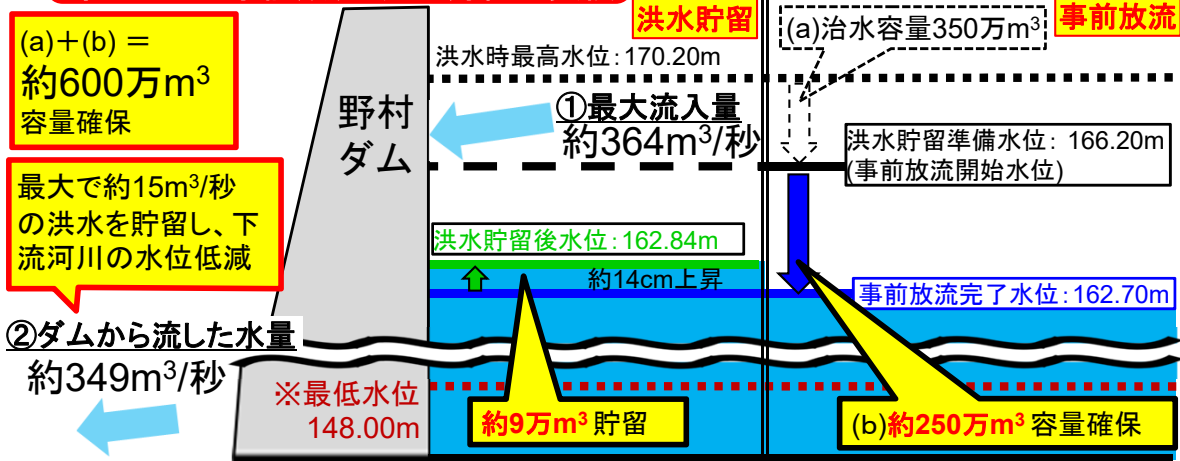


# 令和5年6月の梅雨前線及び台風2号に伴う大雨 野村ダム・鹿野川ダムの効果

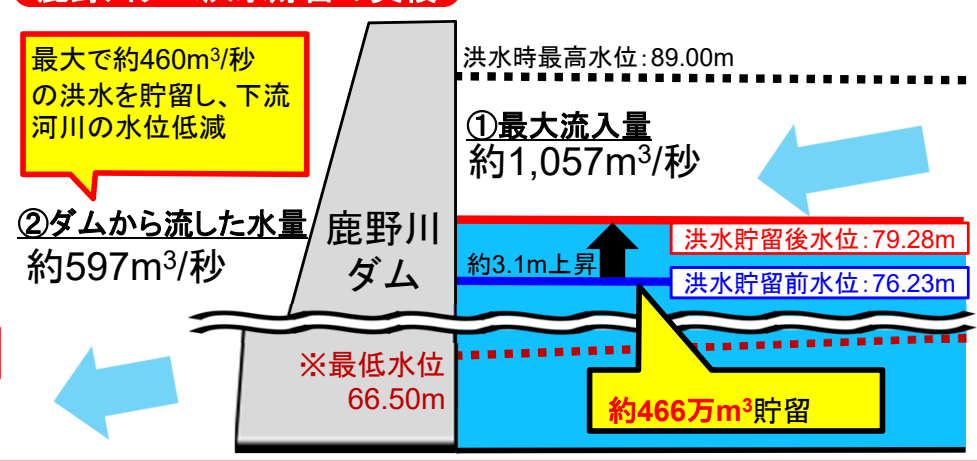


- 前線及び台風2号に伴う大雨により、野村ダム上流域では約133mm(6月1日17時～6月2日20時)、鹿野川ダム上流域では約129mm(6月1日18時～2日20時)の累計降雨を観測。
- 野村ダムでは洪水前に事前放流により約600万m<sup>3</sup>の洪水を貯める容量を確保。同様に鹿野川ダムも予備放流により約2,390万m<sup>3</sup>を確保。
- 野村ダム、鹿野川ダムの防災操作により鹿野川ダムでは、最大流入量1,057m<sup>3</sup>/秒のうち約460m<sup>3</sup>/秒をダムに貯留し下流へ約597m<sup>3</sup>/sの流下に低減した。
- これにより野村ダムと鹿野川ダムの2ダムにより、菅田地区の水位を約0.9m低減し避難判断水位を回避、取川橋地点の水位を約1.1m低減し避難判断水位を回避し、洪水貯留による水位低減効果により取川の氾濫による家屋浸水を回避したと推定。

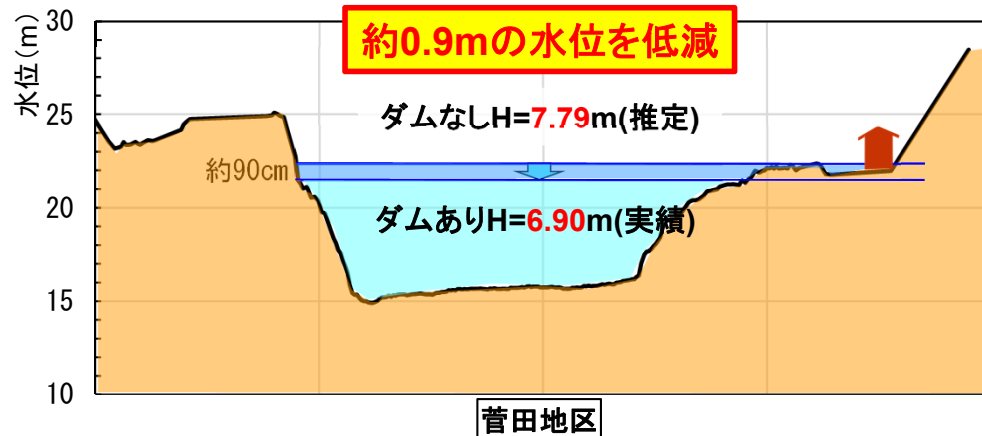
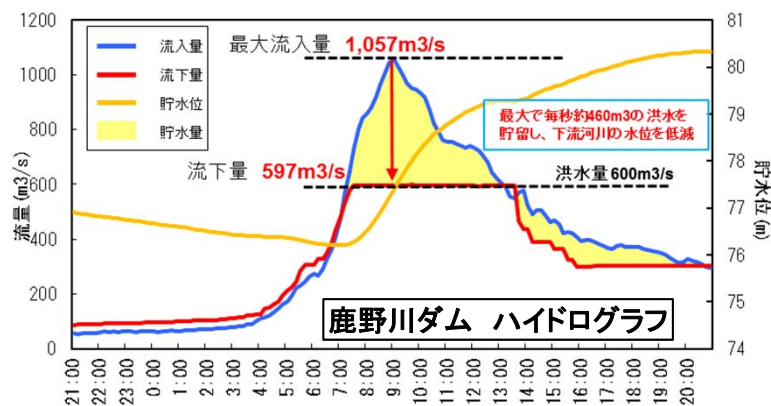
## 野村ダムの事前放流・洪水貯留の実績



## 鹿野川ダム洪水貯留の実績

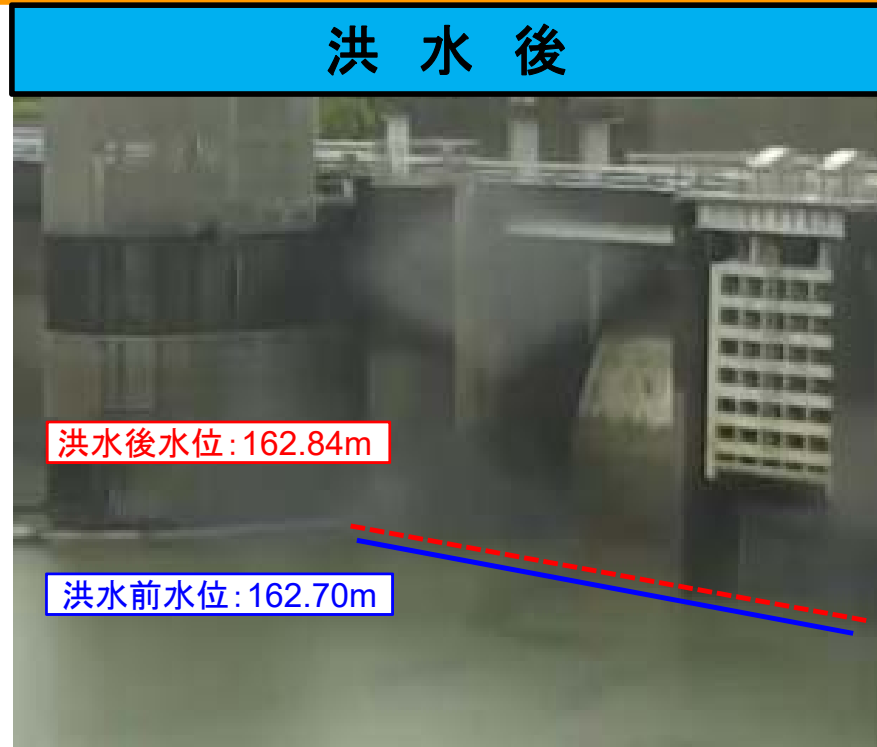
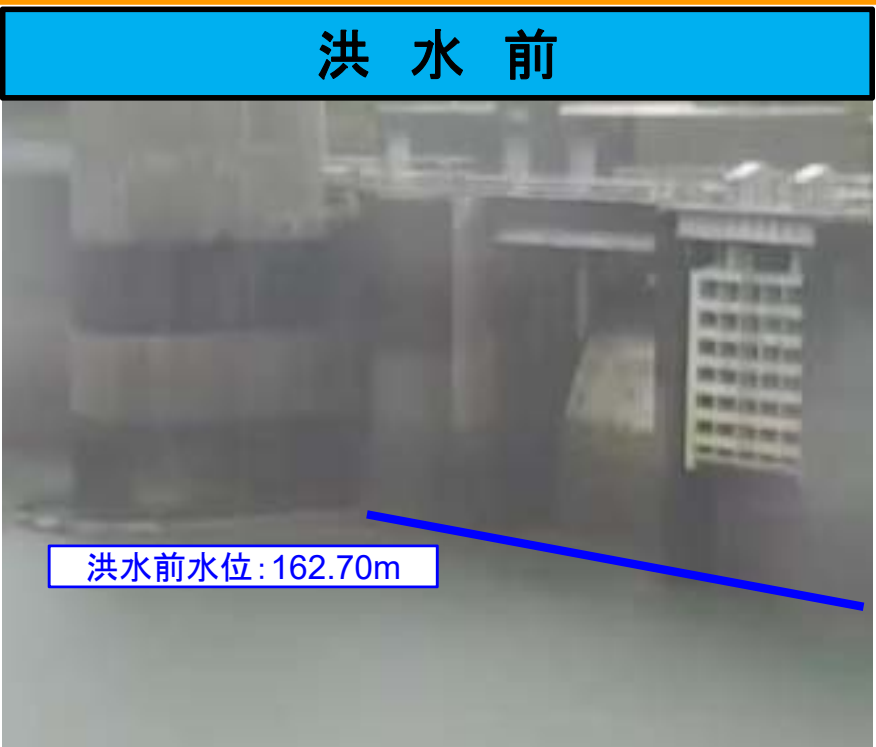


## 2ダムによる下流 菅田地区の水位低減効果

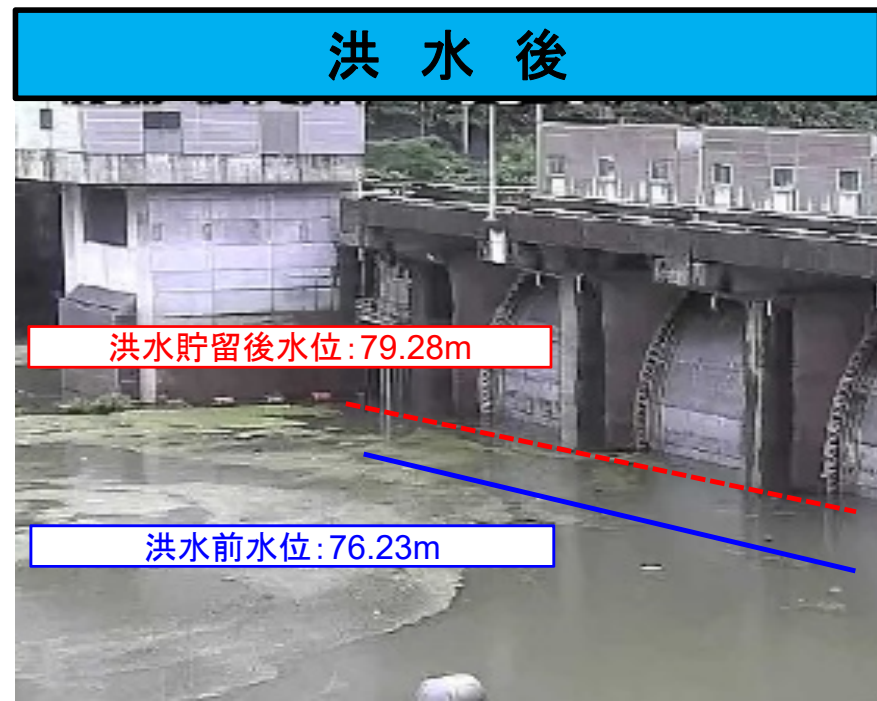
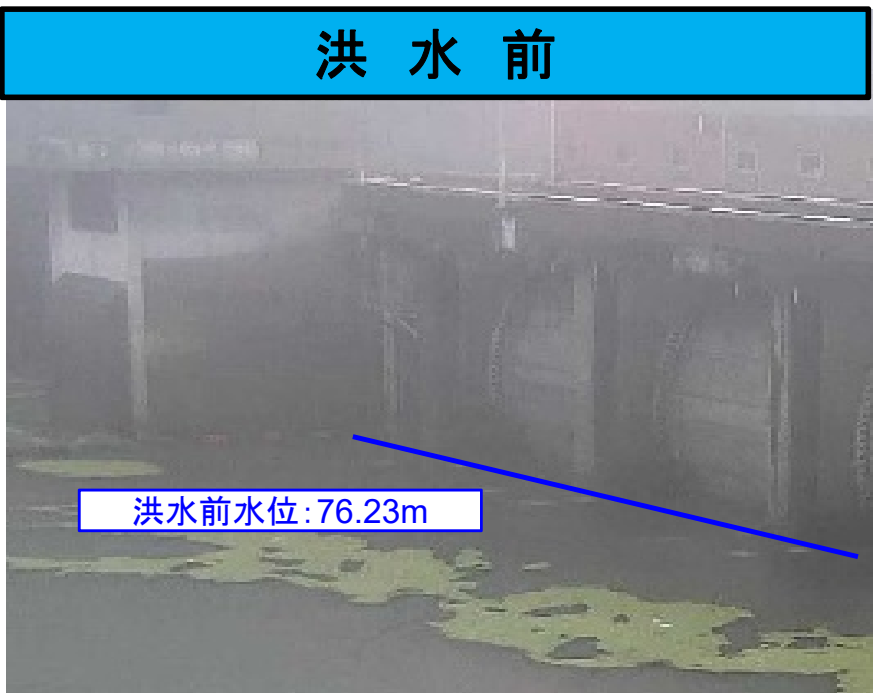


※被害軽減効果はあくまで計算上の値であり、実際の河川水位や浸水面積等と必ずしも一致するものではない

野村ダム



鹿野川ダム



# 被害軽減対策について

梅雨前線及び台風2号に伴う大雨により肱川本川の水位が上昇し、矢落川では東大洲地区、新谷地区の内水氾濫による浸水被害を軽減するため、樋門操作を適切に行うとともに、排水ポンプ車を配置し稼働させる事により浸水被害の軽減に努めました。

